

ダウンロードとセットアップの方法

– サポートデータ、Eclipse、MinGW、JRE –

このマニュアルを読んだ後で、ダウンロードとセットアップを行ってください。

ダウンロードの内容は、サポートデータと、開発用ソフトウェアです。インストーラでセットアップするため、すべてのファイルを同じフォルダにダウンロードしてください。

– 内容 –

1. ダウンロード	2
2. インストーラによるセットアップ	4
3. JRE のインストール	6
4. フォルダの移動と削除	7
5. 64 ビット版 Eclipse CDT について	8
6. Eclipse が起動しない場合の追加設定	9

1. ダウンロード

以下のファイルを指示通りにダウンロードしてください

ダウンロードするには、ファイル名を右クリック→ [対象をファイルに保存]

サポートデータ 正誤情報、通過テスト解答、ソースコード、 別冊付録など	support.zip
統合開発環境 Eclipse (CDT+日本語化、C コンパイラ、JRE 含む)	eclipseCPP-1.zip
	eclipseCPP-2.zip
	eclipseCPP-3.zip
	eclipseCPP-4.zip
インストーラ	inst.exe

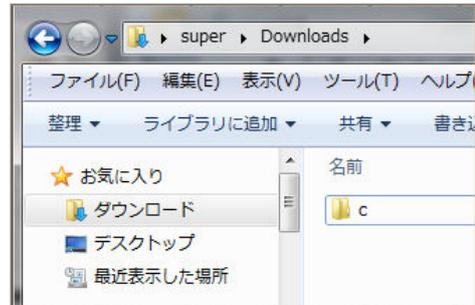
(1) ダウンロード用フォルダを作成しておく (必須)

- ・ 6 個のファイルを同じフォルダにダウンロードしてください
- ・ ダウンロード用のフォルダは「C」などの名前で、任意の場所に作成してください

以下に作成例を示します。

Windows7 で、「ダウンロード」フォルダに新しいフォルダ「C」を作成するには、例えば次のようにする

1. [スタート] → [コンピュータ] とクリック
2. 左欄の [ダウンロードフォルダ] をクリック
3. 上段の [新しいフォルダー] をクリック
4. フォルダ名に「C」と入れて [Enter] を押す



WindowsXP で、「マイドキュメント」に新しいフォルダ「C」を作成するには、例えば次のようにする

1. [スタート] → [マイコンピュータ] とクリック
2. 左欄の [マイドキュメント] をクリック
3. 上段の [新しいフォルダーを作成する] をクリック
4. フォルダ名に「C」と入れて [Enter] を押す



(2) 6個のファイルをひとつずつ、以下のようにしてダウンロードする

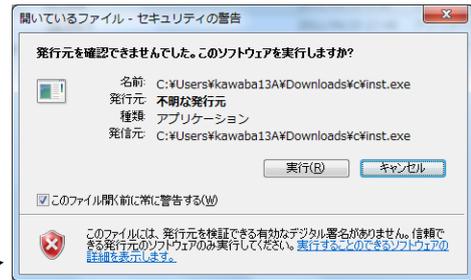
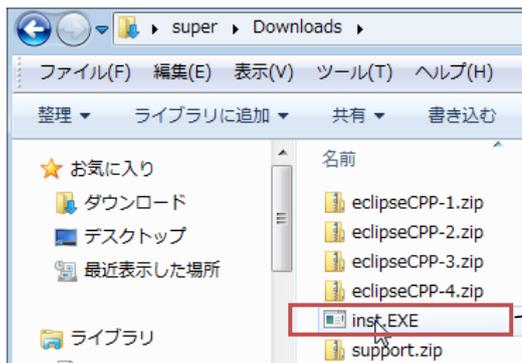
- ① ファイル名をマウスの右ボタンでクリックする
- ② [対象をファイルに保存] または [名前を付けてリンク先を保存] を選択
(使用するブラウザによって異なります)
- ③ ダイアログが開くので、ダウンロード用フォルダを選んでダウンロードする

※ファイル名をクリックすると、ブラウザによってはあらかじめ決められた場所にダウンロードしてしまう場合があります。上記の方法なら確実に指定したフォルダにダウンロードできます。

2. インストーラによるセットアップ

インストーラーを動かして、セットアップを実行してください

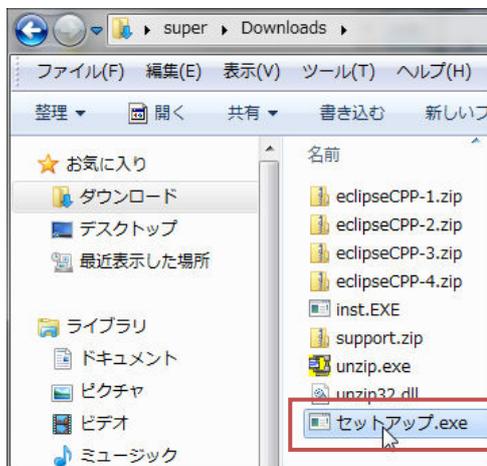
- (1) すべてのファイルをダウンロードしていることを確認する
- (2) **inst.exe** をダブルクリックしてインストーラー (セットアップ.exe)を作成する



セキュリティの警告ダイアログが表示された場合は「実行」をクリックしてください。(表示されない場合もあります)

★コンピュータの設定によっては inst.exe は「inst」とだけ表示されます

- (3) 作成された**セットアップ.exe** をダブルクリックする

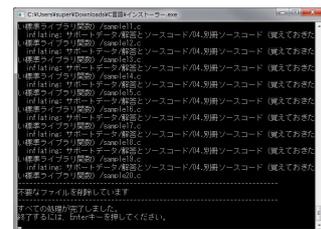


セキュリティの警告ダイアログが表示された場合は「実行」をクリックしてください。(表示されない場合もあります)

★コンピュータの設定によってはセットアップ.exe は「セットアップ」とだけ表示されます

黒いコマンドプロンプトウィンドウが表示され、自動的にセットアップが実行されます。完了まで 3~10分程度 かかります (使用するコンピュータによる)。

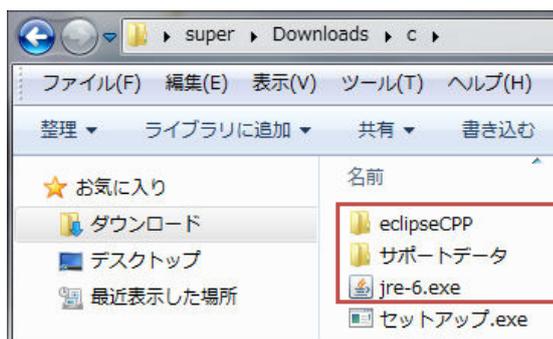
[すべての処理が完了しました] という表示が出たらコマンドプロンプトウィンドウを閉じて終了してください。



(4) 結果を確認する

セットアップが終わると、右図のように2つのフォルダが作成されています。サポートデータとセットアップされた Eclipse です

また、同梱されていた jre-6.exe が抽出されています。



★コンピュータの設定によっては jre-6.exe は「jre-6」とだけ表示されます

【フォルダとファイルの説明】

フォルダ・ファイル名	内容
サポートデータ	内容を必ず確認してください。正誤情報、問題の解答やソースコード、別冊付録などがあります
eclipseCPP	プログラム作成に使用する統合開発環境です。この段階でセットアップは完了しています
jre-6.exe	Eclipse を実行するために必要な Java 環境

サポートデータに正誤情報が含まれている場合があります。
必ず内容を確認してください。

引き続き、次ページでは JRE のインストールを説明します。

★お使いのパソコンにすでに JRE がインストールされていれば、JRE のインストール処理は不要です。インストール済みかどうかは次のようにして確認できます。

- (1) コマンドプロンプトを起動します
[スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [コマンドプロンプト]
- (2) `java -version` とタイプします。
- (3) 次のようにバージョンが表示された場合はインストール済みです。バージョンの値は 1.6.x×か 1.7.x×が表示されますが、これより低いバージョンの場合は JRE をインストールしてください。

```
C:\Users\super>java -version
java version "1.6.0_27"
Java(TM) SE Runtime Environment (build 1.6.0_27-b07)
Java HotSpot(TM) Client VM (build 20.2-b06, mixed mode, sharing)

C:\Users\super>
```

3. JRE のインストール

[jre-6.exe をダブルクリックして JRE をインストールしてください](#)

★コンピュータの設定によっては jre-6.exe は「jre-6」とだけ表示されます

JRE は Eclipse を動かすのに必要なソフトウェアです。ダウンロードしたファイルをダブルクリックして実行すると、指示に従うだけで簡単にインストールできます。



セキュリティの警告ダイアログが表示された場合は「実行」をクリックしてください。(表示されない場合もあります)



コピー先は変更しません

[インストール] をクリック

30 億のデバイスで走る Java

このように日本語で表示される場合もありますが、結果は同じです



インストール完了

4. フォルダの移動と削除

eclipseCPP フォルダを適当な場所へ移動してください

- ・ Cドライブの直下に移動して、「c:¥EclipseCPP」のように配置するといいでしょう

【フォルダの移動方法】

- ① [スタート] → [コンピュータ] とクリックしてエクスプローラを開く
- ② 移動元フォルダを右ボタンでクリック → [切り取り] を選択
- ③ 移動先フォルダ (またはドライブ) を右ボタンでクリック → [貼り付け] を選択

サポートデータフォルダを適当な場所へ移動してください

- ・ 文書などを保存するフォルダ (例えば「ドキュメント」など) に移動してください

ダウンロード用フォルダを削除してください

- ・ jre-6.exe とセットアップ.exe は不要なのでフォルダごと削除します
- ・ 削除するには、フォルダを右ボタンでクリックし、削除を選んでください

以上で導入作業は終わりです。

ドキュメントと開発システムである Eclipse のセットアップが終わりました。
(コンパイラである MinGW と JDK から実行環境を取り出した JRE もセットアップが完了しています)

Eclipse を起動してみたくになりますが、あとほんの少しだけ準備が必要です。
「わかりやすいC」の0章「Eclipse の設定」を読みながら作業を行ってください

なお、「わかりやすいC」の0章と1章のダイジェスト版「EclipseCDT の使い方」を著者のホームページからダウンロードすることができます。本が手元がない場合は、ご利用ください。

《著者のホームページ》 <http://powercampus.jp/top/helloC/>

5. 64 ビット版 Eclipse CDT について

本当に必要ですか？

- 64 ビットのシステムでも 32 ビット版を使えます
- C 言語学習用としては 32 ビット版と 64 ビット版の違いはありません
- 64 ビット版で作成したプログラムは 32 ビットシステムは動きません
- 64 ビット版だからといって軽快に動作するわけではありません
- 64 ビット版では自動セットアップの後、手作業での環境変数の登録が必要です
- 64 ビットシステムには 32 ビット版と 64 ビット版の両方を同時にセットアップできます
(つまり、必要になった時には 64 ビットシステムをいつでも導入できます)

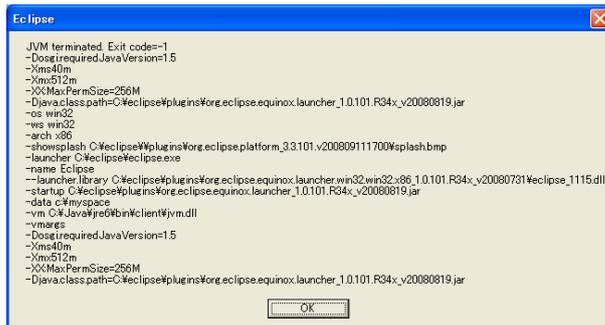
それでも今 64 ビット版をインストールしたいという時は・・・

- 64 ビット版は著者のホームページからダウンロードできます
《著者のホームページ》 <http://powercampus.jp/top/helloC/index64.html>
- 導入方法は 32 ビット版と同じですが、最後に、手動での環境変数の登録が必要です
- [導入先ディレクトリ] ¥EclipseCPP¥MinGW¥bin を環境変数 path に追加してください

6. Eclipse が起動しない場合の追加設定

この説明はセットアップとは関係ありません。セットアップ作業を行った後で、Eclipse がうまく起動しない、という場合に読んでください。

Eclipse では、まれに次のようなダイアログが表示されて起動しない場合があります。この場合は、次のように JVM(Java Virtual Machine)の存在場所と名前を Eclipse のアイコンに追加指定してみてください。



■ JVM の存在場所と名前を指定する

Eclipse の起動用アイコンを右ボタンでクリックし、プロパティを選択します。以下のプロパティダイアログが表示されるので、JVM(Java Virtual Machine)の存在場所と名前をリンク欄の最後に追加記入してください。**vm オプション**といいます。

2重引用符（"〜"）は必須です

JRE のバージョン 7 を 4 ページのようにインストールした場合は、この通りに書けば OK です。

JRE のコピー先を変えるなどした場合は、次ページの解説を読んでください。

【解説】

vmオプションには、javaw.exe がどこにあるか探して、その場所を書きます。
通常、javaw.exe は次の場所にあります。

[インストールフォルダ] %java%jre7%bin%javaw.exe

規定値ではインストールフォルダは c:%Program Files です。JRE のインストール時にコピー先を変えた場合はそのフォルダがインストールフォルダです。